



この一冊

Vol. 115



当会会員 清水 卓 (62期) ●Taku Shimizu

平成29年1月から2月にかけて、弁護修習の個別指導を担当させてもらうという貴重な機会を得ました。将来の法曹界の担い手となる修習生にどのようなことを教えられるかを考えていたとき、書店でふと目につき、手に取ってみたのがこの本でした。

筆者は、陸上競技で挫折を味わった後、サラリーマン生活を経て、2004年に青山学院大学陸上競技部監督に就任し、就任5年後に33年ぶりの箱根駅伝出場、そして、2015年、2016年、2017年と箱根駅伝連続優勝を成し遂げたことで注目を浴びたため、ご存じの方も多いかと思えます。

この本の中では、ビジネスの現場で培ってきた手法やノウハウを、一見すると畑違いに思われる陸上に応用し、陸上界の常識を打ち破ってきたことが述べられ、そのノウハウが47の言葉で分かりやすく説明されています。参考になったものをいくつか紹介したいと思います。

『「柿の木作戦」でメンタルを強くせよ』。柿の実を取るときは、いきなり一番上の柿を取ろうとはせず、まず少し手を伸ばせば届く実から取り、取った実がうまいと分かれば、さらに上

『フツーの会社員だった僕が、青山学院大学を箱根駅伝優勝に導いた47の言葉』



青山学院大学陸上競技部監督 原 晋 著
株式会社アスコム
1,404円(税込)

の実に手を伸ばし、手が届かなければ、あれこれ工夫するようになるという作戦です。まず半歩先の目標を設定し、努力することによりその目標を達成し、成功体験が得られることで、自信の積み重ねとなり、メンタルも強くなっていく。そして、この積み重ねが箱根駅伝優勝へとつながったことが紹介されています。自分のつたない経験を振り返り、弁護士業界でも同様のことが言えるのではないかと思います。『「いちばんつらいときに明るくなれる人』がリーダーである』。筆者は、キャプテンに求

める資質は、チーム全体が一番つらいときに、明るく前向きな空気をつくれるかどうか、物事を前向きにとらえて、それを周りの人に伝える言葉を持っているかに尽きると述べています。この言葉は、自分が弁護士として依頼を引き受けることで、依頼者に安心を提供できているか、前向きになってもらっているかを自問自答してみるというように応用できるのではないかと思います。

「できない理屈を並べるな、できる理屈を考えろ」。筆者は、「できる」を前提に考える癖をつけることが大切であると述べています。「できない」を前提に考えるようになると、その固定観念が考える邪魔をして、プラスのアイデアは何1つ生まれてこなくなるからとその理由を述べています。これはみなさんも難しい問題に直面したときなどに心当たりのある言葉なのではないでしょうか。

このほかにも、「目線は自在に上下できないといけない」「『考えることが楽しい』と思える人をつくれ」「強いチームにいるから自分も強い、と勘違いするな」などの言葉は参考になりました。「そうだ」「なるほど」と思える言葉がきっと見つかる一冊だと思います。■